

令和4年度 学校評価報告

草加市立川柳中学校
(令和5年2月2日作成)

1 学校教育目標	
<p>【賢く】 ・「主体的・対話的で深い学び」に取り組み、未来を力強く切り拓く生徒 ・自分の思いや考えを伝えられ、良識ある判断ができる生徒</p> <p>【優しく】 ・自他一人ひとりをかけがえのない存在として大切にし、正しい行動のとれる生徒 ・誰とでも協力して活動し、喜びを分かち合える生徒</p> <p>【逞しく】 ・共に磨き合い、課題や目標に挑戦し、あきらめない生徒 ・健康の保持増進と体力の向上に努め、安全な生活を心がける生徒</p>	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善と学習習慣の確立による学力の向上 ・生徒を認め、鍛え、育む中での豊かな心と逞しい体の育成 ・生徒の自立を促す学年 ・学級経営の充実・学校力を高める校内研修の充実 ・潤いのある学校環境の整備と美化の推進 ・豊かな人間関係の育成 ・保健・給食指導の充実及び体力の向上 ・進路指導・キャリア教育の充実 ・一人ひとりの自立を引き出す特別支援教育の推進 ・読書活動の充実 ・学校防災体制の確立と安心・安全な学校づくり 	<p>成果 ○部活動や学校行事では、活力に溢れた生徒の姿や教員との信頼関係に、保護者や地域から良い評価をいただくことができた。</p> <p>課題 ●不登校生徒について、教育相談的な課題のある件数が解消されていない。チーム学校を強化させ、保護者と二人三脚で対応できる組織体制を整えていくことが必要である。</p>

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	<p>○Withコロナの教育活動では、感染症対策を行い弾力的な対応が進む潮流に合わせて子どもファーストの運営に徹した。</p> <p>●今後さらに重点目標を意識したチーム行動の強化を図っていく。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	A	<p>○研究委嘱である「自己肯定感・自己有用感の向上」について、方針とのズレのないようその確認を担当中心に行うことができています。</p> <p>●今後さらに重点目標に的を絞った校内研修を計画していく。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	B	<p>○養護教諭を中心に、感染症拡大防止についての対応ができています。</p> <p>●学校施設の劣化が心配である。配管の修復や校舎改装時の避難体制などに遅れが生じないように管理強化を行う。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	B	<p>○個人情報持ち出し簿を活用し、管理職が厳正な管理を行っている。</p> <p>●水道管凍結や廊下天井の雨漏りなど水回りの早急改善のため教育委員会施設課との連携が必要不可欠である。</p>
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<p>○コロナで停滞していた避難所設営訓練が、学校運営協議会のご支援もあり行うことができた。</p> <p>●開かれた学校により、できるだけ多くの生徒が活躍できる場をつくっていく。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<p>○復元をテーマに、コロナ禍でできる取り組みを担当中心に組織的に行うことができた。結果、アフターコロナでも稼働できる体制が整った。</p> <p>●さらに15年間を通じたカリキュラム編成の推進を行い、本校の実態に合った行事計画や年間指導計画を目指していく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての教職員が教育目標を意識した教育活動を行い、学年学級経営に生かすことができた。 ●学区内幼保小との連携を深め、15年間を通じたカリキュラムの編成を進めていく必要がある。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上を目指した授業改善と工夫に努め、生徒の気づきと考える場面設定、及び生徒主体の学習指導改善が図れた。 ●主体的に学習に取り組む態度の評価について、指導と評価の一体化を目指した評価システムの構築が必要である。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全体計画、年間指導計画に基づいた指導・支援に努め、資料分析や発問の検討を行うことができた。 ○いのちの授業（3年）といのちの学習（全学年）を行い、自他を大切にする心情や態度の育成を図ることができた。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全体計画、年間指導計画に基づいた指導・支援と生徒主体の話し合い活動を心がけ、自己決定能力の向上に努めた。 ●生徒主体の話し合い活動と、自己決定能力の向上をより一層図っていく。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全体計画、年間指導計画に基づいた指導・支援のための授業確保に努め、組織で協力して指導を行うことができた。 ●各種オンライン化に伴う事前調査や年度途中に県や市から指示のあった教育活動等により、年間指導計画にズレが生じてしまった。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○共通理解・共通行動と問題行動に対する組織的指導が改善され、生徒の心身の発達や個に応じた指導が行われた。 ●校則の見直しが問われている中、その方向性について教育ビジョンを持って進めていく。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業後の進路に関する具体的な指導を行い、目的意識を持たせるとともに、保護者の理解と協力が得られるよう努めた。 ●職場体験が実施できない状況が続き、社会に出て働くビジョンを持っていない。将来を見据えたキャリア教育を目指し、教育活動全般で取り組んでいく。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい理解と認識が深められ、行事などを通して交流を深めることができた。 ○通常学級で支援が必要な生徒に対しても諸機関と連携し、専門的な知見から学び、指導に生かすことができた。
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書、昼の図書室開放等、書物に触れる機会を増やすことができた。学校司書のアイデア等で“教員のおすすめ”等を図書だよりへ掲載し、読書習慣の促進を図ることができた。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○技術科の授業ではPCやデジタルコンテンツの基本操作や情報モラルを指導したほか、非行防止教室等ではSNS等の使い方について指導を行った。 ●授業や行事等でも積極的な活用を試みたが、通信環境が十分でなく、多人数での一斉使用が困難なため、環境の改善が必要である。
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○社会科や道徳を中心に各教科で幅広く扱うことができた。人権作文や標語では、思考・表現させる機会を作ることができた。 ●教科横断的な視点が大切になってくる。校内研修に位置付けて、教員の資質の向上を図っていく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	幼保小中一貫教育連携	コロナによる協議会等の中止や連携活動の停滞、人事異動による引継ぎ不足が原因で、活動内容が不透明であった。これを復元する。	B	○昨年度同様、「復元」を目的とし、停滞している連携活動の再確認や再始動を行うことができた。 ●小中間の連携をより一層密にし、幼保と小中の連携も、さらに深めていくことが大切である。
	GIGAスクール教育の加速	タブレット端末の活用機会を増やし、教育現場での先端技術の効果的な活用を図る。	A	○教員のICT活用スキルは着実に向上している。Google Meet, Classroom, formを活用し、オンライン集会・会議・学習、Webアンケートをはじめ、生徒も一人一台のタブレット端末を活用している。 ●ネット環境の改善が必要である。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

落ち着いた学校生活、規律ある生活習慣が生徒の素直な言動を後押ししている。学級活動や道徳教育の充実により、各行事等で見られた活力の結晶化は今年度も顕在した。明るく元気に挨拶のできる生徒が多い本校は、授業時と休み時間が明確に区別されている空間が教員と生徒により作られている。朝清掃と朝読書から始まる落ち着いた生活が毎日展開されている。近年は教職員の働き方改革により学校行事の縮小化が懸念されており、本校でも運動会や合唱祭そして宿泊行事等、その内容が精選されているが、準備や本番当日に見られる生徒の活力は、毎年更新されているように思うほどである。

今年度も保護者の皆様をはじめ、PTA役員・学校運営協議員・地域の方々からたくさんのご支援をいただいた。学校関係者評価では、「コロナ対応で大変ではあるが、子どもたちのために今後も頑張ってもらいたい。」という応援の言葉をA評価とともにいただいた。地域の中の学校として、不易と流行の黄金比について今後もチーム川中で模索していく所存である。

6 次年度の改善策

未来を担う子どもたちの学力向上はいつの時代もどこの学校でも喫緊の課題である。本校では、各学力調査より生徒一人ひとりの学習の伸び率は各レベルの層で上昇している。しかし、県平均や全国平均には一歩及ばずの結果が見られることもまた事実である。そこで来年度は、以下のような改善策を講じる。

- ① 各教科、振り返り学習の強化を行う。
- ② 学習習慣の確立のため、家庭学習の指導を継続して行う。
- ③ 各調査結果の分析結果を踏まえた授業の改善と教材研究を行う。
- ④ 指導と評価の一体化を心がけた授業展開を模索する。
- ⑤ ICT機器の効果的活用により、より視覚や聴覚に訴える場面を増やしていく。

これらの取組により、生徒が「わかる、できる、楽しい」と思える毎日を過ごし、自身を成長させていくことで自己肯定感や自己有用感の向上も図っていく。

明るくて素直な生徒たちと落ち着いた学校生活、心強いサポーターである保護者・地域とPTA活動・学校運営協議会、そして活力溢れる教員集団と、次年度に向けた準備態勢は整っている。チーム川中の魂をさらに熱く燃やしていく所存である。